



学校だより

(7月号) 平成30年6月29日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

◎ 夢(ゆめ)に向かって ともに学びあう学校

- ・進んで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》・ろうかは静かに右側を歩こう

お天道様(おてんとうさま)

校長 河井 尚

梅雨空の合間にお日様が顔を出すと、得をしたようで豊かな気持ちになります。我家でも日が射すと窓を開けて空気を入れ替えたり、洗濯物や布団を外へ干したりしています。本当に「おてんとうさま」は偉大で、地球上のあらゆる生き物がその恩恵にあずかっていることを改めて感じさせられます。

さて、数週間前の日曜日のことです。野球が大好きな息子とバッティングセンターに向かって近隣の小さな公園を横切っている時のことです。小学校低学年くらいの男の子とそのお父さんの会話が何気なく聞こえてきました。男の子はサッカーボールを持っていました。お父さんが「ここで練習しよう。」と言うと男の子は「ここではボールを使ってはいけないと書いてあるからダメだよ。」と答えます。「誰もいないし、広い公園までは遠いからここでやろうよ。」とお父さん。



「誰も見ていないからいい。」「ちょっとくらい大丈夫。」「自分ひとりくらいやっても平気。」そんな手前勝手な解釈や言い訳がまかり通っていないでしょうか。

「人」という文字が互いの画で支え合っているように、私達は、社会をつくって支え合いながら生きています。私は、社会の中で互いに信頼し、助け合って生きていくために必要なのが、「人への心遣い・心配り」であり「おもいやり」なのだと思います。

家族や友達などの近い人々や困っている人だけでなく、社会の中で支え合っている見知らぬ人々に対しても「いたわり」の感情や「感謝」の気持ちが湧くようになれば、公道での目に余る自転車の運転マナーや「自分さえよければ」といった言動が減り、あたたかでぬくもりのある社会になるのだと思います。

未来の社会の大いなる担い手となる新開小学校の子ども達には、気働きの良い、他人の痛みを感じられる、心あたたかな小学生、そして大人になってほしいと願っています。



昔の人は、誰かが見ているから、誰も見ていないからといって態度を変えたり、悪いことをしたりすることへの戒めに「誰も見ていなくてもお天道様は見ているよ。」と言って子どもを躾けました。「悪いことをするとお天道様を拝めなくなるよ。」と付け加えて。

さて、最後に件の父子。結局、息子の主張どおり広い公園でサッカーの練習をしたようです。